

力

理		心
號冊	冊記	號番
六	一	三
學 校	縣 中	滋 賀

十五号

西洋哲學講義

有賀長雄講述

卷五

月購	冊種	種	商書
日入	<div style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> 130 245 Vol. 5 </div>		
月			
日			
日			

有賀長雄講述 卷五

卷六
下帙

西洋哲學講義

明治廿六年四月廿七日版権免許

彦根
立中學
校印

西洋哲學講義卷之五

凡例

井上氏留學ノ命アルヤ、此講義未ダ完了ニ至ラズ、然リト雖看客ノ或ハ西洋哲學ノ一斑ヲ知ルノ便ヲ得ザルヲ憾ミントヲ恐レテ三宅氏ニ中世ノ哲學マデノ事ヲ記シ、古代哲學ノ分ヲ完了セントヲ依托セラル、事前卷ノ終尾ニ詳ナリ、然ルニ三宅氏事故アリテ其業ヲ執ルトヲ得ザルモノ茲ニ日アリ、依テ書肆阪上某來テ余ニ三宅氏ニ代テ其業ヲ嗣ガン

「予ヲ乞フ尋テ三宅氏モ亦同意ヲ傳ヘラル、余素ヨリ不才ヲ以テ辭ス、且ツ目下「近世哲學」政體進化論「國情七轉考」等ノ著作ニ從事シテ寸暇ナシ、然レモ古代哲學講義ノ事モ亦我方道ノ一大事ナルヲ以テ、畢ニ淺學ヲ顧ミズ承諾シテ此ニ至ルト云フ爾

明治十七年十一月

有賀長雄識

西洋哲學講義目次

卷之五

第十五回

ストア學派ノ始祖ゼノ氏ノ傳并ニ哲學

第十六回

ストア學派ノ倫理學

第十七回

エピキユロス氏ノ傳

エピキユロス氏ノ哲學

西洋哲學講義卷之五
 第十六回
 第十七回
 第十八回
 第十九回
 第二十回
 第二十一回
 第二十二回
 第二十三回
 第二十四回
 第二十五回
 第二十六回
 第二十七回
 第二十八回
 第二十九回
 第三十回
 第三十一回
 第三十二回
 第三十三回
 第三十四回
 第三十五回
 第三十六回
 第三十七回
 第三十八回
 第三十九回
 第四十回
 第四十一回
 第四十二回
 第四十三回
 第四十四回
 第四十五回
 第四十六回
 第四十七回
 第四十八回
 第四十九回
 第五十回

西洋哲學講義卷之五

有賀長雄 講述

第十五回

ストア學派ノ始祖ゼノ氏傳并ニ哲學

第八十八節 ストア學派ハ甚ダ廣大ニシテ殊

ニ有名大家ノ之ニ屬スル者多シ上ハ希臘ノ哲

士ゼノヨリ、下ハ羅馬ノ爲政家ブルタス、マーカ

ス、アントナイナス等ニ至ルマデ、歷々人物ノ姓

名其傳記中ニ見エタリ、然リトイヘ凡今悉ク此

等諸家ノ言行ヲ述ベンニハ、莫大ノ紙數ヲ要ス

ルヲ以テ、此處ニハ只ダ其始祖タルゼノ氏一人ノ爲人及ビ論說ノミヲ舉ゲテ、此學派ノ一斑ヲ示サントス、

ゼノ氏ハサイプラス島中ノシチヤムト稱スル一小都會ノ人ナリ、是レ元トハフェニシヤ人ノ殖民地タリシカド、希臘人モ來テ此處ニ居住セシモノト見ユ、氏ノ年代未ダ詳ナラス、蓋シ紀元前三百五十年ト二百五十八年トノ間ニ出ヅト知ル可シ、父ハ商人ナリ、ゼノ氏モ亦暫ク其業ヲ繼グ、或ルトキ父アセンスニ渡航シ、歸ルニ及デソ

クラチース派ノ哲學士ノ著述若干ヲ齎ス、ゼノ氏熱心之ヲ窮覽シテ寢食ヲ忘ル、是ニ於テ乎哲學以テ一生ヲ終ハルノ志略ホ定マリシトイフ、ゼノ氏年甫テ三十ノ比、營利并ニ遊興ノタメトテ、アセンス府ニ航行ス、于時同府ハ貿易及ビ哲學ノ大市場タリ、會々難風ノ船ヲ覆スニ遇ヒ、重價ノ貨物悉皆海底ニ沈沒ス、而シテゼノ氏亦資財ヲ殘サズ、策既ニ盡ク、恰モ好シ夫ノ犬儒輩ノ貧困以テ自ラ處スルヲ見テ、欣然トシテ其教理ヲ聽納ス、是ニ於テ乎哲學以テ一生ヲ終ハルノ

志全ク定マリシトイフ、
第八十九節 傳へ言フゼノ氏一日書林ヲ訪ヒ
ゼノフホシ氏ノ備忘録(メモラビリヤ)ヲ播クニ及
デ、忽チ大ニ得ル所アリ、手ヲ拍テ呼デ曰ク斯ク
ノ如キノ人果シテ何レノ地ニ在ルヤト、語未ダ
訖ラズ、犬儒クレーチス氏戶外ヲ過ク、主人之ヲ
指示シ、ゼノ氏ヲシテ之ニ從ハシム、氏はニ於テ
クレーチス氏ノ徒弟トナル、サレド熟々師ノ舉
止ヲ察スルニ、口ニ質素ヲ唱フトイヘ、凡行之ニ
稱ハガル者多ク、且ツ思索ノ力甚ダ遲鈍ニシテ

永ク依ル可キノ器ニ非ザルヲ知ル、是ヲ以テ速
ニ其門ヲ辭ス、尋デスチルボ氏ヲメガラニ叩ク
蓋シゼノ氏が後年ニ至リ、爭論辯證ノ術ニ於テ
大ニ成功アリシ所以ノ者ハ、一ニスチルボ氏ノ
薰陶ニ因ルナリ、然ルニメガラ學派ノ教理モマ
タ未ダ甚ダ精妙ナラズ、スチルボ氏ノ能ク教フ
ル所、ゼノ氏嘉テ之ヲ承ケタリトイヘ、凡其能ク
教ヘザル所モスクナキニ非ザリキ、是ヲ以テ又
之ヲ捨テ、ブレトト氏哲學ノ承述者タルゼノ
クレチトス氏及ヒボリモ氏ニ就ク、蓋シブレト

第九十節　ゼノ氏ノ爲人ヲ考フルニ、道德堅固ニシテ時人其自克ヲ稱セザル無ク、多ク堅人名士ト相交通シタリ、多少大儒輩ノ教理ヲ信受ストイヘ氏、敢テ同派ノ粗暴傲慢ノ風ニ染マズ、却テ謙遜ノ念深ク、僚友ト同席スルトキハ、イツモ未坐ニ就キタリトイフ、形摸脩齊、操履清暖、生來甚ダ强健ナラズト雖モ病少ウシテ長生セシ所以ノモノ、一ニ體徳節制ノ宜シカリシニ因ル、平世食トスル所、無花草、麵包、蜂蜜ノ三種ヲ出デザリシトカヤ、沈思冥想ノ爲メ、額上ツトニ浪ヲ生

シ、コレニ因テ相貌一層嚴格ヲ加ヘ、善ク其教理ノ嚴格ナルニ相應シタリ、特ニアセシス府人カ氏ヲ敬慕崇信スルノ切カリシハ、曾テ氏ヲ擧ゲテ同府城門ノ鍵ヲ監守セシメタルニテモ知ル可シ、死スル後マセトシテ王アンチゴナスノ德通ニ依リ、府民氏ノ爲メニ黃銅ノ像ヲ建テ、永ク紀念ニ供シタリ、銘ニ曰ク「其行合其教ト、豈ニ美ナラスヤ、傳ス曰ク氏ノ月例如ク講演ヲ卒リ、杖ヲ引テストア館ヲ出テントスルトキ、誤テ倒レテ一指ヲ折ル、是ニ於テ始メテ身ノ老イ

タルヲ悟リ、地ヲ打テ敷シテ曰ク「予レ今日此催
迫ニ逢ワバ何事ツヤ、已ナシ已ナシ、地ヨ予レ將
ニ汝ノ召喚ニ應ゼントス」ト家ニ歸ルニ及テ自
ラ縊レテ死ス、
第九十一節 ゼノ氏ノ教ヲ闡クニ當テヤ、希臘
ハ風教亂レ、德義頽レテ、國家將ニ亡ビントスル
ノ秋ニ會ヒタリ、是ヲ以テ、其主トシテ論ズル所、
道德ガ一事ニ在ルハ、亦時勢ノ然ラシムル所ノ
ミ、
エタレル氏曰ク、ストア學派ノ手ニ在テ
ハ哲學ハ人生ノ實務ト親密ノ關係ヲ有シタリ、

此派ニ依ルトキハ、哲學ハ實務ヲ經營スル爲メ
ノ智慧ノ謂ヒナリ、徳ノ演習ナリ、徳ノ學校ナリ、
據テ以テ人ノ一生ヲ有徳ニ卒フベキ原理ノ學
問ナリ、人ノ徳ヲ高ウスルノ目的ニ出テザル一
切ノ科學、技術、教訓等ハ、ストア學派ヨリ之ヲ見
レバ、無用ノ重物タルノミ、凡ソ人ノ勉メテ修ム
ベキ者ハ、智慧ニ外ナラズ、即チ神人ニ界ノ事物
ニ關スル智慧ニシテ、據テ以テ行ヲ制スルノ道
タル可キ者ナリト、
ストア學派モ亦前後ノ學派ト同一轍ニ出テ、

其教理ノ全體ヲ分チテ論理、物理、倫理ノ三科ト爲ス。論理ハ真正ノ知識ニ達スルノ法ヲ講スル者ナリ、物理ハ萬有ノ本性及ヒ秩序ヲ講スル者ナリ、倫理ハ物理ニ據テ定メタル人生實務ノ規矩ヲ講スル者ナリ、其中ニ就テ此學派ノ奇觀ノ最モ著明ナル者ト做ス可キハ、倫理ノ一科コレナリ、今茲ニ論理、物理ノ二科ヲ略述シ、第十六回ニ於テ倫理ノ一科ヲ稍々詳細ニ講究セントス。第九十二節「抑々ストア學派ノ論理學ニ於テ最モ著明ナル點ハ何ゾト云フニ、據テ以テ觀念

ノ眞偽ヲ決ス可キ眞理ノ討檢ヲ定ムル事、是レナリ、而シテ此學派ハ客觀ノ境界、則チ物界ニ於テ此討檢ト爲ス可キ者ヲ索メズシテ、主觀ノ境界、即チ心界ニ於テ之ヲ索メタリ、是レ正シクアリストトトル氏以後ノ哲學ヲシテ獨斷ニ偏スルノ勢アラシムル所以ノ者ナリ、アリストトトル氏ニ在テハ、斯ク人ノ心中ノ事ニ就キ論辯スルヲ以テ無益ノ空事ト爲シ、只ダ外界ノ事物ノミニ關シテ考究ヲ盡クシヌ、然ルニ、ゼノ氏ノ時ヨリ考究ノ方迥一變シタリト謂フベシ、ストア

學派ノ論ニ曰ク、凡ソ人類智識ノ初ヲ糾セバ、其由テ來ル所、外界ノ物類ガ心意ノ上ニ現實印象（アクチアル、イムプレッション）ヲ起コスニ在リ、語ヲ換ヘテ言ヘバ、五官方客觀界ノ事物ニ就キテ經驗スルニ在リ、而シテ理會力ハ此等ノ經驗ヲ取テ、彼レ是レ結合シテ、總念ト爲スナリ、是ヲ以テ、智識ノ眞實ナル者トイヘバ、ミナ外界ニ因由セザルヲ得ズ、然ルニ人ノ心意ニハ、又想像カト云フ者モアリテ、敢テ外界ニ依據セズ、勝手ニ内境ニ於テ色々ノ觀念ヲ製作スルニ依リ、斯ル觀念

ト、眞ニ物類ニ因由スル智覺トハ、常ニ相混雜シテ人ノ志識中ニ存在セリ、ソレユエ智識ノ眞實ナル者ト、然ラザル者トヲ辯別センニハ、イカニモシテ此二種ノ意識ヲ分別スルノ法ヲ定ムルト必要トナレリ、是レ即チストア學派ガ眞理ノ討檢ヲ建テントシタル所以ニシテ、之ヲ主觀ノ境界ニ於テ索メタルナリ、其果シテ討檢ト定メシ所ノ者ハ何ゾトイフニ、拒否シ難キ證據即チ確信ノ勢カコレナリ、委シク言ヘバ、觀念ノ何タルヲ問ハズ、若シ精神ニ迫テ其信ナルトヲ認承

セザルヲ得ザラシムル類ノ者、即チ假令イカホ
下信受スマジト欲シテモ、到底信受セザルヲ得
ザラシムル類ノ者アラバ、是レ正シク想像力ニ
源泉スル浮虚ノ觀念ニハ非ズシテ、外界物體ニ
因由スル現實ノ觀念ナリト知ル可シトナリ、此
所謂著明證據ヨリ外ニ、眞理ノ標準ト爲ス可キ
者ハ無シ、何トナレバ、凡ソ印象ヲ除キテハ、事物
ヲ知ルノ路絶エテ無ケレバナリトナリ、
第九十三節 儲テマタストア學派ノ物理學ニ
至テハ、其主トシテ採ル所、ヘラクリトス氏ノ哲

學ニ在リト謂フ可シ、而シテ其前ニ出テタル諸
家ノ所説ト相違スル所ハ世ニ無體ノ物無シト
云フ單元ヲ嚴密ニ諸科ニ考究ニ適用シタルニ
在リ、即チ一切ノ物皆有體ナリ、體質ヲ具足スル
モノナリトノ單元ナリ、サレバストア學派ハ何
故ニ斯様ノ單元ヲ立テシヅトイフニ是レ其論
理學ニ於テ一切ノ智識ハ覺官ノ智覺ヨリ生ズ
トイフ事ヲ奉ゼシニ因ルナリ、覺官ノ能ク智覺
スル所ノ者ハ必ズ皆有體ナル可キ事勿論ナリ、
サルホドニ金石土水禽獸草木等ニ至テハ之ヲ

有體ナリトスルモ別ニ怪シムニ足ラズ然リト
雖モ凡ソ六合ノ間ニ存在スル者豈ニ只ダ有機
體ト無機體トノミナランヤ、鬼神靈魂等ノ物果
シテ有リトセハ、ソハ未ダ必ズシモ有體ナリト
爲スヲ難カラシ、故ニストア學派ハ此等ヲ以テ
如何ナル者ト爲セシヤト云フニ、彼輩ハ矢張り
此等モ有體物ナリ一種ノ定體ナリトシテ、サ
レバ何故ニ此等ヲ以テ有體ト爲セシゾト云フ
ニ、是レ即チ鬼神靈魂等ノ物ニシテ果シテ有體
ナルニ非ザルヨリハ、金石土水禽獸草木等ノ如

キ有體物ト相交通シ、是レヨリ彼レノ上ニ發作
ヲ及ボスノ路無カラントノ理論ヲ建テタルニ
因ル事ナリ、神又ハ心意ニ於テ外界物體ニ干涉
スル事アリ、又外界物體ニ於テ神又ハ心意ヲ感
動スル事アルハ、現然ノ事實ナリ、然ルモ體ナキ
物ガ體アル物ニ干涉シ、體アル物カ體ナキ物ヲ
感動ストイフ事アルベキ理由ナシ、何トナレバ
干涉ト云ヒ感動ト云フガ如キハ皆發作（アクシ
ヨシ）ニシテ、發作ハ即チ體ノ動ク貌ナレバナリ、
若シ體ナクンバ何ゾ動ク貌アランヤ則ストア

學派ノ徒ハ以爲ク凡ソ物ト物ト相發動スルハ
兩ナガラ同様ノ本性ヲ具フルニ非ザル事無シ
鬼神精靈靈魂等ノ物モ果シテ外界物體ト受動
若シクハ發動ノ關係アルモノナル上ハ必ズヤ
定體ナラザルヲ得ズ但ダ其種類ヲ異ニスルノ
ミト即チ當時ノ語ヲ以テ之ヲ言ヘバ萬有ミナ
定體ナルニテ其一種ヲ無機體ト稱シ又一種ヲ
有機體ト稱シ尚ホ又一種ヲ精靈體ト稱ス可シ
トノ論ナリ此論ヲ立テ精靈ヲ以テ成レル者
ト物質ヲ以テ成リ立ツ者トノ區別ヲ消却シタ

リ是レ其アリストーリートル氏ト異ナル所ナリ氏
ハ神即チ常恒不滅ノ純真體形ト世界即チ常恒
不滅ノ純真材料トヲ以テ全ク相別立スル者ト
爲シタリサレド果シテ然ランニハ其間ニ交通
アル可キ理由ナシト言ヒテストア學派ハ氏ノ
說ヲ拒否シタリ是ヲ以テ彼輩ノ奉シタル所ハ
一元論(モニズム)又ハ唯物論(マテリヤクスム)ナ
リ

然レバ又ストア學派ノ徒ハ鬼神ト世界ト(即チ
精靈ト物質ト)ノ間ニハ如何ナル關係アルモノ

ナリトセシヤト云フニ、彼輩ハ神ヲ以テ能動ノ
勢力ナリト爲シ、物質ヲ以テ所動ノ材料ナリト
爲シタリ、云フ意ハ、物質ハ自ラ發動スルノ力無
ク只ダ寂淨タル者ナレド、神在リテ之カ上ニ發
動シ、之ニ體形ヲ賦附スルナリト、然シナガラ又
神ト物質トハ相別立スルニ非ズシテ、本來相包
合スル者ナリトシタリ、一言以テ之ヲイヘバ世
界ハ神ノ定體タリ、神ハ世界ノ靈魂タルナリ、シ
ユウグレル氏曰ク、ストア學派ハ神ト物質トヲ
以テ同一自全ノ本體ナリト爲シ、其受動的ニシ

テ變易スル側面ヲ見テハ之ヲ物質ト呼ビ、其發
動的ニシテ不變ナル側面ヲ見テハ之ヲ神ト稱
スト、做スモノナリト、則チ其說ニ依ルトキハ、別
ニ世界ト稱ス可キ有邊有量ノ自存物ニ於テ特
立孤在スルニ非ズシテ、神ナル者モ其内ニ遍在
シ、之ヲ生出シ、之ニ活氣ヲ賦附シ、之ヲ主宰スル
ナリ、喻ヘテ言ヘバ、世界ハ莫大ナル生活物ナル
ニテ神之カ靈魂タルナリ、從テ又其說ク所ニ曰
ク、世界ノ中ニ在ルトアラユル者ハ皆神聖ナリ、
何トナレバ、神力普ク其各部ニ透達スレバナリ

ト、之ニ由テ是ヲ觀レバストア學派ノ教理ハ後
世ノイハユル萬有神教(バンシズム)ナル者ニ符
合スルナリ、
此ニ又ストア學派ノ世界開闢論ヲ舉グルトキ
ハ、右ノ論一層明瞭ヲ加フベシ、則チ曰ク、天地ノ
未ダ闢ケザル、只ダ渾沌タル神火(デバイン、フア
イヤ)アルノミ、後ニ至リ火ノ清淨ナル者昇テ氣
ト成リ、粗荒ナル者降テ水ト成ル、水ノ一分凝結
シテ地ト成リ、他ノ一部蒸騰シテ氣ト成リ氣ヨ
リ轉ジテ元トノ火ト成ル、而シテ重厚ナル二元

素、即チ水ト土トハ、オモニ受動的ナルニ反シテ、
稀薄ナルニ元素、即チ火ト氣トハ、オモニ發動的
ナリト、又曰ク、一定ノ世期ノ末ニ至ル片ハ、天地
萬物ミナ溶化シ、燃燒シテ、本原ノ神火ニ歸成ス
歸成スレバ又分化シテ四元素トナル、斯クノ如
ク榮枯盛衰循環シテ止マザルガ法ナリト、
ストア學派ノ教理ニテハ神ト世界トノ間ニ如
何ナル關係アルモノトスルヤトノ事ハ右ニテ
畧ボ分明ナリ、神ハ世界上ニ發動スル勢力ナリ、
儲テ次ニハ其發動ストイフハ如何様ニ發動ス

ルニヤト云フ事ヲ説カザル可カラズ、蓋シ此問題ニ對スル答釋ハストア學派ノ有名ナル倫理論ノ由テ起ル所ナレバ、心ヲ留メテ考究セザル可カラズ、借テ其答釋ニ曰ク、神ハ世界ノ上ニ不朽ノ定道ヲ布キ、之ニ依テ一切萬物ヲシテ不變ノ定律ニ從ハシムルモノナリ、神ハ圓滿道理トナリテハ各事名物ヲシテ其宜シキニ適セシム、無量智慧トナリテハ萬有ノ秩序ヲ持護シ、善ヲ勸諭贊揚シ、惡ヲ禁止懲戒スルモノナリト、凡ソ世界ニ在ル者ハ能ク其所ヲ脱シテ特立スルコト

無ク能ク其本性ヲ離レ其分限ヲ踰ユルコト無シ、各事各物必ズヤ神ノ道理ト威徳トヲ以テ定メタル宇宙全體ノ秩序ニ對シテ一定ノ關係アルコト、其關係ヤ得テ動カス可カラズ、移ス可カラザルナリ、斯ノ如キハ是レ神ノ世界ニ及ボシ、世界ノ神ニ受クル發作ノ大要ナリ、仰テ天ヲ望ミ、俯シテ地ヲ觀ルニ、整々調和シテ加フ可キ無ク又去ル可キ無シ、神明靈智ノ主宰アルニ非ザルヨリハ何ゾ斯ノ如クナルコトヲ得ンヤ、
次ニストア學派ニ於テハ人間ノ心意ヲ以テ何

如ナル者ト爲セシヤト云フコトヲ述ベシ、夫レ心意ハ體形ナク、却テ自ラ發動シテ外物ノ體形ヲ定ムル者ナリ、故ニ最モ神明ニ近キ者タルヤ明ナリ、ユウベルウヅグ氏曰ク、ストア學派ニ依レバ、人類ノ靈魂(心意)ハ神ノ一部分ナリ、神ノ支流ナリ、分派ナリ、靈魂ト其本源タル神トハ交互發作スル者ナリト、是ヲ以テ心意ノ發動スル所神之ヲ知り、神ノ制定スル所心意之ヲ知ルコトヲ得ルナリ、神ノ道理トスル所ハ人モ亦之ヲ道理トスルハ是レガ爲メナリ、夫、靈魂ノ物タル、人間ノ

身體髮膚ニ普及スル温氣コレナリ、其モト神火ニ出ツ、身體死スルノ後ト雖モ靈魂尚ホ存スル事アリ、然レ凡一世期ノ終リニ至リ萬物溶化スル時ハ、靈魂モ其ニ溶化ス可シ、靈魂ハ箇ノ部分アリ、即チ五官ト言語ノ力ト、生殖ノ力ト、總宰力ト是レナリ、總宰力ハ心臟ニ位シテ再現、即チ追懷想像等ト情慾、即チ喜怒哀樂等ト理會トノ府ナリト、

第十六回

ストア學派ノ倫理學

第九十四節 前回ニ於テハストア學派ノ哲學
ノ三部ノ中ヲ二部マデ講ジタリ、故ニ今回ハ殘
ル一部ヲ講セントス、即チ倫理學ノ一部ナリ、偕
テ其倫理學ハ前回ニ述ベタル物理學ト甚ダ深
密ノ關係アリ、物理學ニ於テハ、世界萬物ノ間ニ
道理ニ合ヒ神明ニ本ク一定ノ秩序在テ存スル
事ヲ證明シタリ、倫理ノ基趾ハ此秩序ニ據テ定
マルモノナリト説クナリ、即チ其論ニ曰ク、凡ソ
人タル者が此世ニ生存スル道ノ最モ正シキ者
トイヘバ、宇宙ノ道理及ヒ秩序ニ隨順スル事コ

トナリ、此事ノ上ニ出ヅル人類行爲ノ法トテハ
一モ有ル可キナラズ、最上ノ善、即チ人ノ奮勵ノ
無上ノ目的トス當キ所ノ者ハ、生命ヲシテ宇宙
ノ理法、世界ノ調和ニ適應順合セシムルニ在リ
約シテイヘバ自然ニ適應順合セシムルニ在リ
ト、自然ニ隨順ス當シ、自然ニ和合シテ生活ス當
シト云フハ是レストア學派ノ倫理ノ眼目ナリ、
人各々心意アリ、心意能ク道理ヲ辯ズルノ性ア
リ、道理ヲ辯ズルノ性、尚ホ天成ノ質素ヲ存スル
所アリ、既ニ人事ノタメニ染汚セラレタル所ア

リ、自ラ求メテ其天成ノ質素ヲ存スル所ニ從フ
是レ道ナリ、何トナレバ是レゾマサシク人ノ人
タル所ニシテ、眞ニ人ヲシテ合理ナル宇宙ノ合
理ナル部分ヲラシムル者ナレバナリ、人ハ自然
ノ内ハ人ナリ、自然ヲ離レテ存スル者ニ非ズ、故
ニ其意志ノ如キモ自然ノ意志卽チ萬有ノ理法
ノ内ハ意志ナルベシ、是レ意志ノ正經ナル者ナ
リ、自然ニ合ハザル一己ノ私心ノ如キハ意志ノ
染汚シラレテ不正ナル者ナリ、道理ニ合ハザル
者ナリ、斯ク自然ノ道理及ヒ秩序ニ隨順スルハ

是レ人タル者ノ天命タルノミナラス、且ツ又其
幸福ノ因テ存スル所タリ、何トナレバ、此道ヲ行
ヘハ、内ハ自己ノ本性ニ背カズ、外ハ物類ノ秩序
ニ違ハズ、死ニ至ルマデ易々安閑水ノ低キニ就
クガ如クナルコトヲ得可ケレバナリ、
第九十五節 上文述ブル如クニ身ヲ處スルヲ
指シテストア學派ハ徳ト云ヒタリ、黃石子ニ「徳
者人之所得、使萬物各得其所欲」ト見エ淮南子ニ
「得其天性謂之徳」ト見エタルモ略ホ同義ナリ、サ
テ右ノ論一旦定マルウヘハ、之ヲ基本トシテ種

々推測スルトキハ、此學派ノ倫理學ノ詳細自ラ
分明ナル可シ、左ニ其要領ヲ舉ゲン、
先ヅ第一ニストア學派ガ提唱シタル徳ト快樂
トノ關係ヲ説カン、彼輩徳ト快樂トハ相容レザ
ルコト氷炭ノ如キ者ナリト説キタリ、其故イカ
ニトナレバ、徳トハ前ニモ言ヘルガ如ク私心ヲ
捨テ自然ニ合スルノ謂ヒナルヲ以テ、何ニツケ
テモ自然ヲ主トシテ自身ヲ從トシ、自身一己ノ
爲メトテハ露ホドモ懸念セヌガ道ナルニ、快樂
トハ全ク自身一己ニノミ關スル者ナルニ因ル

ナリ、人ノ靈魂ハイツモ小心翼翼々トシテ自然ニ
違ハザラントヲ務ム當キモノナリ、而シテ快樂
トハ靈魂ガ斯ル務メヲ息ムル間ノ有様ヲ謂フ
ナリ、是ヲ以テストア學派ノ眼ヨリ見レバ、快樂
ノ有ルハ、取りモ直サズ正シキ生活ノ無キニテ
善ニ背ク事タリシナリ、此學派ノ一人ナルクリ
アンテス氏ノ説ニ曰ク、快樂ハ自然ニ隨順スル
所以ニ非ス、又自然ノ目的ニ非ズト、而シテ後ニ
出デタル同派ノ哲士中ニハ、多少此説ノ嚴格ナ
ルヲ緩メ、快樂モ自然ニ隨順スルニ出アル者ナ

リト論ジ、或ハ之ヲ以テ福ナリト爲セシ者無キ
ニ非ズト雖モ、尚ホ之ヲ以テ分毫モ道德上ノ價
格ナキ者ト爲セシニ於テハ、前後一轍ナリ、即チ
快樂ハ自然ノ運行正當ナルトキ之ニ因テ偶發
スル者ナリト説キタレドモ、自然ノ運行ノ目的
タル所ノ者ナリトハ説カズ、且ツ快樂ハ靈魂ノ
發動スル有様ニ屬スル者ニ非ス、但ダ其勞ヲ休
メテ受動スル有様ニノミ屬スル者ナリト説キ
タリ、ストア學派倫理學ノ嚴格ヲ以テ世ニ稱セ
ラル、所以ノ者ハ、全ク此ニ在リ、則秋毫ハ一人

一己ノ私念ヲ狭ムノ隙アラシメズ、只ダ賢明ナ
ル行爲ノミヲ以テ道德ノ標準ト爲シタルヲ以
第九十六節 次ニストアハ何ヲ以テ福(マテリ
ヤル、ダト下)ナリ幸ナリト爲セシヤト云フトヲ
述ベン其論ニ曰ク道理ヲ備ヘタル人間タル者
ノ目的トスベキ徳ナル者、是レ取りモ直サズ其
福ナリト、即チ密ニ言フトキハ、人ノ幸福ハ決シ
テ其靈魂ノ外ニ就テ之ヲ求ム可カラズ外部ノ
事物ハミナ不定ニシテ故障多シ、只ダ靈魂内部
ノ道理ト、道理ヲ力行スル強剛トアルニ於テノ

ミ人ハ有福ナリ、意志行爲トモニ自然ニ應合ス
ル時ニ於テノミ人ハ幸ナリトノ論ナリ、例ヘバ
健康、富貴等ノ如ク人ノ精神ノ外ニ在ル一切ノ
福ハ、悉ク皆福ニ非ズ、又福ナラザルニモ非ズ、蓋
シ健康、富貴アリトモ爲メニ道理ヲ益スルト無
ク、靈魂ノ尊威ヲ増スト無ケレバナリ、此等ノ物
ハ道理ニ合ヘル様ニモ又合ハサル様ニモ之ヲ
用フルトヲ得ベシ、之ニ依テ憂ヲ生ズルトヲモ
亦歡ヲ生ズルトヲモ得ベシ、即チ知ル未ダ必ス
シモ初ヨリ眞ノ福ニ非ザル事ヲ、必ズイツモ益

有テ損無キ者ハ徳バカリナリ、徳ヨリ起ル福ノ
ミハ健康、富貴等ノ如キ外部ノ事情ニ於テ缺失
アリトモ、爲メニ影響セラレ、ト無ク、恒ニ動力
ズ變ゼザルナリ、又所謂禍ナル者ニ至テモ、靈魂
ノ外ニ存スルモノハ是レ眞ノ禍ニ非ズ、直ニ禍
ト稱スベキ者ハ不徳ノ一アルノミナリ、不徳ト
ハ自然ニ違戾スル逆理(オシリイヅシ)是レナリ
ト、蓋シ此點ニ於テハストア學派ト夫儒學派ト
少シク説ヲ異ニスル所アリ、即チ他無シ、ストア
學派ハ此ク靈魂ノ外ニ在ル物ヲ排斥スト雖モ

其間亦多少ノ差別アリトシ、其或ル者ハ固ヨリ
道德ニ合ヘル福ニ非ズトイヘル、尚ホ多少ハ價
格アルガ故ニ、寧他ヲ措テソレヲ採ルベシト、
價格トハ何ゾヤ、人タル者ガ自然ニ隨順シテ生
活セントスルヲ助クルノ効能アリ、從テ幾分乎
道德ノ上ニモ裨益アル事コレナリ、是ヲ以テ今
モシ聖人ニ健康富貴ト病苦貧困トノ熟レヲ採
ルゾト問ヘバ、寧健康富貴ヲ採ラント答フベシ、
且ツ是レヲ採リテ彼レヲ斥クルモノ、其謂ハレ
無キニ非ズ正シキ道理ニ從ヘリトイフベシ、何

トカレバ、健康富貴ハ病苦貧困ヨリモ行爲ノタ
メ便利ナリ、行爲ニ便利ナル者ハ徳ヲ力行スル
爲メニモ便利ナレバ、然レモトア學派ハ
健康富貴以下靈魂ノ外ニ在ル者ヲ以テ實福又
ハ正面ノ善（ホシチトスグトト）ナリトハ爲サバ
リキ、其故他夫シ、此等ハ自餘一切ノ事物ノ上ニ
置テ人生ノ目的ト做ス可キ最勝ノ善（シテトプリ
ーム、グトト）ニ非ザレバ、大ニ徳ヲ抱ク事コソ此
等ノ事物ノ上ニ置クベシ、況ンヤ此等ノ事物
ハ無キトテモ徳ヲ行フ難キニ非ザルヲヤト

斯ノ如クストア學派ハ眞ニ善キモノ(ダトド)ト
唯ダ採ルベキモノ(アレステトブル)トノ間ニ區
別ヲ立テ、絶對ニ善キモノ而已ヲ善キモノト呼
ビ、待對ニ善キモノ、即チ他ノモノトノ比較ノ上
ヨリ云フ善キモノヲ、採ルベキモノト呼ビタリ
第九十七節ニ次ニハストア學派ガ立テタル德
ト不德トノ區別ヲ述ブヘシ、其論ニ曰ク、凡ソ行
爲ハ有德ニ非ザレバ斷然不德ナリ、不德ニ非ザ
レバ斷然有德ナリ、只ク此二種アルノミ、其中間
ニ位スル者アル可カラズ、有德ハ悉ク皆有德ナ

リ、大小輕重ノ分別アラズ、不德ニ於テモ亦然リ
ト、是レ又彼輩ガ定メタル德ノ定義ヲ以テ推測
スルヨリ必然繼起スルノ論ナリ、德トハ合理ノ
謂ヒナリ、事物ノ自然ニ戻ラヌ様ニ正當ニ作爲
スルノ謂ヒナリ、不德トハ道理ニ戻逆スルノ謂
ヒナリ、自然及ヒ眞理ニ背反スル邪曲ノ謂ヒナ
リ、凡ソ人ノ行爲ハ順理ニシテ背反ナキ乎或ハ
然ラザル乎ノ一ヲ出テズ、果シテ順理ニシテ背
反ナキトキハ有德ナリ、然ラザルトキハ、其道理
及ヒ自然ニ戻逆スルノ度イカハカリ微小ナリ

トモ到底不徳タルヲ免レズ、完全無缺ノ善人ニ
シテ始メテ善人タルヲ得シノミ、假令一點ノ
逆理アリトモ、既ニ逆理タル上ハ、其人ニ於テ善
人タリ有徳者タルヲ得ズ、唯ダ一點ノミ體徳
ヲ禁ジ得ザル所アリ、情操ヲ制シ得ザル所アリ、
或ハ前後唯ダ一度ノミ過失アリシ人トイヘ、
爲メニ永ク善人タルヲ得ズトナリ、順理ト逆
理トノ中間ヲ占ムル程度ハ存セザルヲ猶ホ眞
實ト虚偽トノ中間ヲ占ムル程度ハ存セザルカ
ゴトシト、又此教理ヲ基トシテ立テタル種々ノ

定説アリ、今其一ニヲ舉ゲン、曰ク眞ニ一點ノ難
モ無ク道德ニ合ヒタル行爲ト云ヘバ、必ず先ヅ
徳ヲ十分ニ具ヘ、善ノ在ル所ヲ十分ニ知り之ヲ
實踐スルノ能力ヲ十分ニ得タルノ上ニ非ザレ
バ作シ難キ者ナリト、語ヲ換ヘテ言ヘバ、徳ハ必
ズ完全無缺ナルベシ、假令イサ、カニテモ缺ケ
タル所アレバ徳ニ非ズ、苟モ徳ト稱スルニ足ル
者ヲ毫末モ殘サズ備フル乎、然ラザレバ全ク之
ヲ備ヘザル乎、一ナリ、人ハ徳ノ全體ヲ抱クニ
於テ始メテ道德家タルヲ得ルナリト、又同シ

教理ニ基ク今一條ノ定説モ右ニヨク似タル者ナリ、曰ク一切ノ善行ハミナ同等ニ正經ナリ、一切ノ惡行ハミナ同等ニ不善ナリ、善、不善、德、不徳ノ間ニ敢テ輕重小大ノ差等アラズ、其區別ヤ絶對ニシテ精要ナリト、但シ合法ノ行爲、即チ徳ニ根源セザレバ自ラ徳ノ法ニ合ヘル行爲ノミニ至テハ、之ヲ以テ兩極ノ中間ニ位スル者トシタリ、然レドモ之ヲ以テ道德上ノ價格アル者トハ爲サマリキ、ニ合ルヤ否カハ其ノ別ニ決スル事ナリ、第九十八節其後ニ出デ、先輩ノ斯ク布揚シタ

ル所ヲ繼承セシ學徒ノ中ニ、道德ニ合ヘル行爲ハ、各種ニ關シテ特殊ノ理論ヲ建設シ以テ、種々ノ達徳論ヲヲントロジテ主唱トナリタル者甚ダ多シ、諸君此輩ノ論ズルヲ聞クニ曰ク、徳ヲ成ス者ハ、絶對ノ斷定力ト、苦痛ニ堪ユル絶對ノ能力ト、願望及ヒ肉體慾ニ克ツ絶對ノ能力ト、各事各物ハ萬有統系ノ内ニ在テ占ムベキ正當ノ價格ニ準シテ之ヲ處置スル絶對ノ公道ト是レナリト、但シ絶對トハ外物ヲ斟酌セズ靈魂ニ於テ獨斷シテ定ムルノ義ナリ、又其本分ヲ論スル

ヲ聞クニ曰久本分ニ二種アリ、自吾ニ對スル本分ト、他人ニ對スル本分ト是レナリ、自吾ニ對スル本分ノ主トシテ關スル所ハ、苟モ自然及ヒ道理ニ順合スル者ハ之ヲ求メ、兩者ニ逆戾スル者ハ之ヲ避ク、以テ自身ノ保全ヲ計ルニ在リ、但シ自身モ自然ノ一部ナルヲ以テ、故無ク之ヲ害シ亡ボスハ逆戾ヲ免レズ、是レ此本分ヲル所以ナリ、又他人ニ對スル本分ノ主トシテ拘ル所ハ、人々社會中一個人タルヨリ生ズル關係ヲ完ツスルニ在リ、則チ社會ヲ結成スルニ至リシ所以

ノ天性ニ戾逆セザル様ニ身ヲ處シ、互ニ社會結成ノ事ヨリシテ生ズル仁義公道ヲ遵守スルヲ以テ此類ノ本分ノ大體トス、人ヲ欺キ財ヲ盜ムガ如キハ、内ハ社會ヲ結成スル人ノ一タル自身ノ自然ニ逆リ、外ハ社會ヲ結成スル人ト人トノ間ニ存立スベキ秩序ニ戾ルモノタリ、邦國ト云フ者モ、社會ヲ結成セントスル人ノ自然、即チ天性ニ淵源スルナリ、而シテ人ノ天性ニ因由スル邦國ハ果シテ斯々ナルベシトノ道理ニ照シテ考フルトキハ、列國相敵抗スルハ正シキトニ非

ス、全人類須ク一ノ廣大ナル社會ヲ結成シテ、誰
レモ彼レモ同シ原理、同シ法律ニ從フベキナリ
ト、是ニ於テ乎ストア學派ハ四海一家說(コスモ
ポリタニスム)ノ創說者タルナリ、
第九十九節、爰ニストア學派ノ倫理學ノ略述
ヲ完了セシガ爲メニハ、彼輩ノ教理中ニ見エタ
ル聖人ノ形容ヲ舉ゲズバカナフマシ、彼輩聖人
ハ當ニ斯々ノ人物ナルベシト說キ、之ヲ以テ一
切行爲ノ師表、即チ模範ト爲シタルナリ、偕テ退
テ其所謂聖人ナル者ハ何ゾト考フルニ、是レタ

、德ノ最モ嚴正ニシテ成全ナル者ヲ形容シ、之
ニ加フルニ自在ニ其德ヲ力行スルノ能力ヲ以
テシタルモノニ外ナラズ、乃チ其論ニ曰ク、現ニ
神及ヒ人ニ就キテノ真正ナル智識ヲ十分ニ備
ヘ、又此智識ニ原由スル純全タル道德上ノ智覺
ト能力トヲ十分ニ備ヘ、以テ凡ソ人タル者ノ備
ヘ得ベキ圓滿完全ノ態ハ悉ク皆之ヲ一身ニ兼
具スル者、是レ聖人ナリト、又曰ク、聖人ハ凡ソ人
タル者ノ知り得ベキ所ノ事ハ悉ク之ヲ知り、何
レノ人ヨリモ善ク之ヲ理會セリ、何トナレバ、聖

西海本島言事 卷之五
人ノ靈魂ハ真正ニ構造セラレタル者ニシテ、事物自然ノ性質ノ真正ナル智識ヲ備フレバナリ、是ヲ以テ真正ノ爲政家タリ、法制家タリ、辯舌家タリ、教育家タリ、批評家タリ、詩人タリ、醫師タルヲ得ベキ者ハ獨リ聖人アルノミナリ、之ニ反シテ、痴者ニ至テハ、假令イカホドノ得識アリトテモ、必ズ荒粗ニシテ未熟ナリ、聖人ヤ恒ニ道理ヲ用ヒ、事々物々其道理上互ニ相關係スル所ニ從テ之ヲ思議ス、是ヲ以テ過失アラズ、物ニ驚カズ、事ニ動カズ、情ニ走ラズ、泰然トシテ加フ可カ

ラサレモノアリ、聖人ヤ人ト人トノ間ニ存スル關係ヲ明知シ、其關係ニ因テ生ズル本分ヲ完了ス、是ヲ以テ能ク真正ノ民人タリ、朋友タリ、親戚タリ、聖人ヤ善ノ善タル所以ヲ自身ニ具足シ、之ニ依テ躬ヲ其行ヲ制ス、是ヲ以テ法律、習慣等ノ如ク自身ノ外ヨリ出ヅル規矩法則ノ制督スル所ト爲ラズ、自主ニシテ自由ナリ、又同シ道理ニ因リ、自身ニ對スルノ外ハ責ニ任ズ可キ所アラズ、聖人ヤ事務及ヒ職業ニ關シテモ自在ナリ、如何ナル類ノ世事ニ臨ミテモ、運轉自由ナリ、是レ

其德其性質ノ然ラシムル所ナリ、聖人ヤ富裕ナ
リ、何トナレバ、一切入用ノ物ヲ得ルノ能力アリ
又其有セザル所ノ物ヲ有セズトモ不自由ヲ感
ゼザルノ路ヲ知レバナリ、聖人ヤ假令イカナル
難澁ニ陥ルトモ、幸ナラザル事ナシ、何トナレバ
其身其德ニ於テ幸福ノ本源既ニ備ハレバナリ、
之ニ反シテ、不智者ハ幸福ヲ享クト見エ、自身モ
享クト思ヘリトモ、其實ハ然ラズ、何トナレバ、不
智者ハ真正ノ幸福ニ缺ク可カラザル靈魂ハ成
全ト云フ者ヲ備ヘザレバナリ、斯ノ如ク内心ニ

道德ノ根本ヲ置キ、之ヲ以テ人間各種ノ事業ニ
當ラシガ爲メ、并ニ真正ノ幸福ヲ享有セシガ爲
メニ、缺クベカラザル者ナリトスルハ、是レスト
ア學派ノ教理ハ大眼目ナリ、即チ彼輩ハ主觀ノ
靈魂(心意)ヲ以テ是非曲直ノ因テ定マル所、幸不
幸、徳不徳ノ因テ分ル、所ト爲シタルナリ、然リ
ト雖モ、主觀ハ未ダ必ズシモ客觀ノ上ニ立ツ可
キ者ニ非ズ、宇宙ニハ心意モアレバ又心意ニ非
ザル物類モアリテ、共ニ相關係スルユエ、單ニ心
意ノミヲ根本トシテ立テタル倫理説ハ、或ハ未

夕完全ナル者ニアラザラシ、宜ナル哉此學派ノ
教理中言フ可クシテ行ヒ難ク存シ難キ者多キ
ヲ、現ニ後ニ此學派ヲ繼テ出デタル學徒ノ如キ
モ、自ラ許シテ右ニ言フ如キ聖人ハ現實ニ存在
セズ、只ダ想像上ノ模範ナリト言ヘリ、夫レ然リ
然リト雖モ、何分ニモ德義地ニ墮テ、國家將ニ亡
ビントスルノ秋ニ際シテ、俗習ニ染マズ、獨リ巍
然トシテ道德ノ理想ヲ唱ヘ、倫理ト政治トノ間
ニ井然タル區別ヲ立テ、前者ヲ以テ一種特別
ノ理學ト爲シタルハ、實ニ此學派ノ不朽ノ功績

ナリト謂フ可クシ、
第廿七回
第百節
世人
強飲食
人ナ
事ニテ
君子ニシテ
却テ絶情
同意セリ、一説ニ氏ハセモスト云フ地ニ於テ生

マレタリ、又アセシスニ近キガルゲツタスト云
ワ處ニ於テ生マレタリトイフ説モ見エタリ、千
時紀元前三百四十二年ナリ、即チストア學派ノ
主唱ゼク氏ト略ボ同ジ時代ナリ、家素ヨリ貧シ
ク、父ハ文法ヲ教授シテ僅ニ口ヲ糊ス、氏自ラ傳
フル所ニ依レバ、氏カ始メテ哲學ニ入りシハ、年
十三ノ時ナリト、リユウキス氏曰ク、氏年十三哲
學ニ入ルト云フト雖モ、吾人ハ此事ヲ誤解スヘ
カラズ、殊ニ智力拔群ノ少年ノ如キハ、幼キ比ヨ
リ、宇内ノ現象ニ就キ色々疑問ヲ起シテ、釋答ヲ

得ンル勉ムル所アリ、正セキユロス氏ノ如キモ
即チ此ナ例ナリ、イト幼キ時一ノ疑問ヲ起セシ
ニ、教師ハ之ヲ答辯スルヲ得ザリシヨリ、段々
深ク釋ネ入りシモノト見ユ、傳ヘイヌ、氏一日人
以テシテ、家ノ詩ヲ讀ム、一切萬物モト渾沌ヨリ
來ルト言フヲ聞テ、霍然トシテ億ヲ起シ、即チ問
テ曰ク、渾沌何處ヨリ來ルト、是レ童兒ノ活潑ナ
ル精神ニハ甚ク起リヤスキ疑問ナラスヤ、又人
ノ始メテ哲學ニ入ラント思ヒ立ツモ即チ斯ル
疑問ヲ起レル故ニ非ズヤ、正セキユロス氏ノ教

師於氏ヲシテ哲學ニ就テ其解答ヲ求メシメタリ、是ノ時ニ際シテ、氏會々答モタリト云、氏ノ著書ヲ得、熱心窮覽ス、尋テ自餘ノ哲學者流ノ著書ヲ涉獵シ、志操既ニ定マルニ於テ、當時諸方ニ有名ナル諸家ノ門ヲ叩テ咨請シタリ、然リト雖モ此等ノ諸家ノ說ク所ミナ多少ノ裨益ナキハ非ザリシモ、未ダ以テ十分信取スルニ足ラズ、是ニ於テ氏終ニ自ラ振テ諸家ニ就テ聞キ得タリ、所収以テ材料トシテ十家ノ教系ヲ組成シタリ、其ハ氏以自ラ稱シテ獨悟自得ノ哲學者ナリト

言フモ久、亦當ラザルニ非ザルナリト、
氏弱年ノ比ハ、鬼角ニ志操一定セザリシト見エ、
目途モ往々變轉シタリ、年十八ノ時杖ヲアセン
スニ引キタリトイハレ、滯留僅ニ一年ニシテ辭
シテコロフホシ、ミチリニ、ラムパサコス等ノ諸邦
ニ遊歴シ、三十六歳ノ時再ヒアセンスニ復リ來
リテ、有名ナル花園ノ内ニ於テ學校ヲ興シ、紀元
前二百七十二年ニ卒去セシ日マデモ親シク之
ヲ監督シタリ、
氏常ニ清閑ナル花園ノ中央ニ端坐シ、朋友圍繞

ス、思フカ儘ニ或ハ審思シ或ハ歡樂ヲ取テ安易
平穩ノ間ニ一生ヲ卒ヘタリ、氏ト氏ノ朋友トノ
交誼極メテ厚カリシ事ハ世ニ言ヒ傳フル所ナ
リ、一年五穀實ラズシテ衆庶饑餓ニ苦ミシ時、花
園ノ雅友互ニ財物ヲ投ジテ相扶持シタリトナ
シ、エピキユロス氏花園ノ門ニ一面ノ額ヲ懸ケ
タリ、文ニ曰ク「主人性厚待ヲ好ム、謹テ諸君ニ稟
告ス、此内ニ於テハ快樂ヲ以テ無上ノ善ト爲シ、
後圃ノ麥餅、前泉ノ清水、諸君ノ飲食ニ任ス、敢テ
人造ノ美味ヲ以テ諸君ノ嗜慾ヲ誘ハジ、花園ノ

自然ニ供スル所、諸君隨意ニ之ヲ取レ、豈ニ是レ
厚待ニ非ズヤト、其質朴亦見ルベキノミ、然ルニ
世人ハ往々此花園ヲ譏誚シテ牛飲馬食ノ處ト
爲シ、劣情醜慾ノ地ト爲ス、蓋シ冤罪ノミ、是レ古
今ノ諸家ノカメテ辯スル所ニシテ、就中ダイヲ
チニトス、レヤルチス氏ノ如キハ事實ニ照ラシ
テ誹謗ノ全ク無根ナルトヲ證明シタリ、且ツ斯
ク誹謗ヲ出ダスニ至リシ理由モ、之ヲ見ルト決
シテ難カラズ、察スルトコロエピキユロス氏ト
反對ノ議論ヲ唱ヘタルストア學派ノ所爲ナル

可シ、元來エヒキユ口教ノ如ク快樂ヲ以テ人生ノ目的ナリト爲ス者ハ、何レノ世ニ在テモ深ク其旨趣ヲ窮察セザル輩ノ爲メニ非議セラレ、
一自然ノ勢ト謂フ可シ、況ヤ當時希臘國風潰レ
道德亂ル、ノ秋ニ際セシヲヤ、況ヤ同時ニスト
ア學派在リテ、快樂ヲ以テ不徳ノ極ト爲シタル
ヲヤ、凡ソ二派ノ教理ノ相容レザル者アルトキ
ハ、互ニ我ガ教理ヲ以テ善トシ、反對ノ教理ヲ以
テ惡トシ、反對ノ教理ヨリ生ズベキ結果ニシテ
徳ニ違ヘル者アレバ、其未ダ生ゼザルノ前ヨリ、

既ニ生非タルカノ如クニ言ヒテ、反對論者ヲ責
ムルハ、古今ノ常ナリ、エヒキユ口教ニ關スル誹
謗ノ如キモ、此ニ原因スル所或ハ多カラシム
ア學派ハ、エヒキユ口ス派ノ柔弱ニシテ勇氣ナ
キヲ深ク擯斥シタリ、エヒキユ口ス派ハ又ス
ルア學派ノ偏屈ニシテ人情ニ違ヘルヲ深ク
輕蔑シタリ、斯クテ雙方トモニ百方誹譏讒謗シ
タリシガ、其中ニモストア學派ノ教理及上行為
ハ克己ヲ主トシテ一時人心ヲ籠絡スルヲ得
シヲ以テ、其言論ハ自ラ世入ノ信用ヲ置ク所ト

ナリ、傳ハテ今日ニ至リシモノナル可シ、
エビキユロス氏ハ希臘ノ哲學者中ニテ著述最
モ多キ人ニシテ、獨リクリシポス氏（ソクラテス）其右ニ
出ヅト云フ、而シテ其著書中ニ就テ全體ヲ現
時ニ傳ヘタル者トテハ一モ無ケレド、尚ホ其片
碎ノ此處彼處ニ存スル者甚ダ多ク加フルニ自
餘ノ諸家ノ著述中ニモ氏ノ教旨ヲ引ク所少ナ
カラザルヲ以テ、吾人ノ氏ノ教理ニ關シテ確實
ニ開陳スルヲ得ルハ、決シテ他人ノ諸氏ノ教理
ノ比ニ非ザルナリ、況ヤ其教理ハ元來領會ニ苦

ム所少シモ無キヲヤ、エビキユロス氏自ラ其著
述中ノ要點ヲ采擇シテ簡短ナル抜粹ト成シ、徒
弟ニ命ジテ之ヲ暗記セシメタリ、多ク今日ニ傳
フル者即チ是レナリ、
第百一節 エビキユロス氏ノ哲學
ガ哲學ニ下ダシタル定義ノ性質ヨリ推シテ考
フレバ、必ズ灼韜タラン、其定義ニ曰ク、哲學ノ關
スル所ノ者ハ、觀念ト議論トニ依テ一生ヲ幸福
ノ中ニ卒ヘンガ爲メノ行爲コレナリト、之ニ由

テ是ヲ觀レバ、氏ハ哲學ヲ以テ人世ノ實際ヲ目的ト爲スニ起リ、生活ヲ安易ニスルノ術ヲ講スル倫理學ヲ生ズルニ終ル者ト爲シタルナリ、蓋シエヒキエロス派ニ於テモ通例哲學ヲ分チテ論理學、彼輩之ヲ稱シテ法式學カノニクト曰フ、物理學、倫理學ノ三科トセザリシニ非ズ、然リト雖モ、論理學ノ區域ヲ制限シテ眞理ノ討檢ヲ尋窮スル者ト做シ、之ヲ以テ物理學ノ保助タルニ過ギザルノ地位ニ置キタリ、又物理學ハ人ガ或ハ怪物、妖魔等ノ話ヲ誠ト思ヒ、其他色々ノ惑信

上ノ恐懼ノ爲メニ其身ノ幸福ヲ害スルヲ防ガシガ爲メニ存スル者ナリ、從テ倫理學ノ缺ヲ補フ者ナリト做シタリ、サレバエヒキエロス派ニ於テハ哲學ノ三區分ヲ保存シタリトイヘ、其舊來ノ順序ヲ顛置シテ、論理ト物理トヲ從位ニ下シ、倫理ノ一ヲ主位ニ登シタルモノナリ、而シテ獨リ倫理ノ一科ノミ此學派ノ機軸ヲ出ダセシ所ニシテ、他ノ二科ハ不完全ナルガ上ニ、デモクリトス等ノ諸氏ニ採ル所サヘ多ケレバ、此ニハ其倫理ノミヲ抄出セントス、

第百二節、エヒキエロス氏ハアリストトール氏以下ノ諸子ト其轍ヲ同フシテ、生活ノ安易、即チ幸福ヲ以テ人間ノ最上ノ善(ハイエスト、グロト)ト爲シタリ、サレド幸福ヲ成ス者ハ快樂ノ外ニ一モ無シト説キ、徳ノ如キモ其自體ニ於テ價格有ルニ非ズ、人生ノ究意目的ニ非ズ、只ダ適意ニ生活スルノ方法トシテノミ價格アル者ナリト論シタリ、世ニ惡無シ、獨リ苦痛ノミ惡ナリ、世ニ善無シ唯ダ快樂ノミ善ナリ、徳勸ム當キガエエニ之ヲ勸ムルニ非ズ、快樂ヲ生ズレバナリ、徳

責ム當キカ、エヒキエロス氏之ヲ責ムルニ非ズ、苦痛ヲ増セホナリ、サレバ此學派ノ哲學ハ主眼ハ快樂ノ一事ニ在ルヤ明白ナリ、故ニ第一ニエヒキエロス氏ハ果シテ何如ナル者ヲ以テ快樂ナリトセシヤト云フ事ヲ究定セザルベカラズ、只ダ快樂主義ト云フ言ハバ、甚ダ善カラズ又主義ノ様ニ聞ユレド、善キト善カラズトハ全ク其語ノ意義ニ依ルホナレバ、一概ニ論ス可カラズ、先ツ意義ヲ糾スベキナリ、之ヲ糾ストキハ、エヒキエロス氏ト、氏ニ先キ立テ出テタル學派ト人間

二逕庭アルヲ見ルベシ、前ニ第四十三節ニ於テ述ベタル如ク、シリシ學派ノ始祖アリスヲホス氏モ快樂ヲ以テ人生ノ目途ト爲シタリト雖モ氏ハ單ニ目前ノ快樂ノミヲ以テ快樂トシタリ之ニ反シテ、エヒキユロス氏ハ永ク一生涯ニ涉ル安閑平易ナル満足ノ情ヲ以テ人生ノ目途ト爲スベキ快樂ナリトシタリ、故ニ真正ノ快樂ハ必ズ先ヅ熟思熟算シタル上ニ非ザレバ得ベキニ非ズト、何トナレバ、假令一時ハ快樂ヲ生ズル者トイヘ、後ニ苦痛ヲ生ズルガエエニ避クベ

キト多ク、又假令一時ハ苦痛ヲ生ズル者トイヘ、後ニ大ナル快樂ヲ生ズルヲ以テ受クベキト多カルベケレバナリ、獨リアリスチッホス氏ノミナラズ、外ニモ現在ノ快樂ノ最モ高度ナル者ヲ以テ最上ノ善ト爲シタル者多シ、然レモエヒキユロス氏ハ嘗ダ目前ノ快樂ノミナラズ、一生涯ノ快樂ヲ目的ト爲シタルヲ以テ、彼等ニ同意セザリシナリ、此一點ハ世人ノ往々誤解スル所ナレバ、能々注意セザル可カラズ、氏ハ決シテ幸福ヲ得ルタメニ成ル可ク盛ナル快樂ヲ取ル可シ

ト説キタルモ入ニ非ズ、却テ清醒ト節制トヲ勸
メ、小量ニ安シテ成ル可ク人タル者ノ自然ニ背
カヌ様ニス可シト説キタルモノナリ、氏ヲ誤解
シテ淫逸放蕩ノ徒ガ好メル如キ肉體上ノ歡樂
ヲ圓滿幸福トスルモノナリト妄想スル者ニ對
シテ、氏ハ辯論シテ曰ク、我レニ麵包ト清水トノ
ミ有ラシメハ神ニモ劣ラヌ快樂ヲ享ケシト、又
曰ク、予ガ快樂ハ生活ノ目的ナリト言クニ於テ
ハ、放蕩淫逸酒色ニ耽ル者ノ快樂ヲ言フニ非ズ、
是レ無識者又ハ害心アル徒々往々予ニ誣スル

所ナリト雖モ、全ク無根ノ冤罪ノ如ク、予ノ所謂快
樂トハ、身體ニ苦痛ナク、心神ニ煩悶ナキ事ナリ、
何トナレバ、生活ヲ愉快ニスルハ、日夜宴飲スル
事ニ非ズ、婦女子ト交ヲ結ブ事ニ非ズ、山海ノ珍
味、四季ノ佳肴ニ飽ク事ニ非ズ、只ダ取捨去就ノ
事理ヲ窮察シ、以テ徒ニ人ノ心目ヲ惑ス類ノ浮
虛歡樂ヲ擲棄スル所以ノ清醒禪歡コレナレバ
ナリト、又大ニ費用ヲ要スル類ノ快樂ハ、其性質
ノ何如ニ拘ラズ、後ニ憂ヲ殘ス者ナリトテ排斥
シタリ、ハ又ニ予ニ言ク、ハハ大論學意ハ、

サリトテ又エビキユロス氏ハ犬儒學派ノ轍ヲ踏テ貧困ヲ以テ徳トセズ、態々粗食敝衣スルヲ以テ務トセズ、イカニ盛ナル快樂トイヘ、後ニ患ヲ殘ス、一サヘ無ケレバ、故サラニ之ヲ捨ツベキ理由ナシト説キタリ、加之人々平生相當ノ快樂ヲ享クルニ定ルダケノ備ヘハ隨分注意シテ立テオク可シト説キタリ、獨リ聖人ニ至テハ既ニ心中靈魂ノ寂靜トイフ最モ眞誠ニシテ且ツ堅固ナル歡喜ノ本源ヲ備ヘ居リ、之ニ越ユル満足ノ情トテハ有ラザルヲ以テ假令少々ノ不自

由ヲ被ルコトアリトモ、敢テ之ヲ除クノ要ヲ見ザルナリト、
第百三節 上文引用スルエビキユロス氏ノ語ヲ以テモ見ル可キ如ク、氏ハ快樂ニ心ノ快樂ト、身體ノ快樂トノ二種アリ、苦痛ニモ精神ノ苦痛ト、身體ノ苦痛トノ二種アリ、概シテ言ヘバ精神ノ快樂コソ身體ノ快樂ノ上ニ立ツ可キ者ナリトシタルナリ、其理由何如ト問フニ、曰ク他ナシ、身體ノ快樂ハ一時ニシテ止ムト雖モ、心意ノ快樂ハ未ダ存セザル前ヨリ之ヲ期望スルニ

自ラ快樂アリ、既ニ存スルノ後ニモ之ヲ記憶スルニ自ラ快樂アレバナリ、且ツ人々ノ隨意ニ、或ハ之ヲ意識ノ上ニ惹起シ、或ハ之ヲ意識ノ上ヨリ除去シ得ベキト多ケレバナリ、イツモ新規ノ快樂ヲ得ルニ汲々トシ、現時ノ不愉快ヲ患ヒ、過去ノ愉快ヲ忘ル、ハ、人ノ常ナリ、エピキエロス氏之ヲ戒メテ曰ク、人ハ成ル可ク過去ノ快樂ヲ記憶ニ保藏シテ恰モ牛ノ一旦喰ヒシ草ヲ吐キ出シテ再嚼スルガゴトク、後日悲嘆ニ沈ムトキ回想シテ歡ヲ取ルノ料ニ供ス可キナリト、氏永

ク病ミ伏シ、死ニ垂々タルニ及テ、イトメニヤスト云フ親友ニ贈リシ書翰アリ、今尚ホ片碎ヲ存ス、其語ニ曰ク「予ノ此世ニ在ルモ最早今日一日ホナリ又、今日ハ體內ノ苦痛最モ堪エ難ケレドモ、尚ホ予ニ取テハ愉快ナリ、何トナレバ、往時卿等ト清談セシ砌リノ快樂ヲ追懷シテ以テ目前ノ苦痛ヲ消殺スレバナリ、卿等此後モメツロドラスノ遺子ヲ教養シテ卿等ガ平日予ニ對スル德行ト、主張スル所ノ哲學トニ背ク勿レ云云ト、サレバ氏ハ心意ノ快樂ハ身體ノ苦痛ヲ減滅ス

ルノ効力アル者トシタルナリ、
第百四節 エピキエロス氏以爲ク人生ノ苦痛
ノ主要ナル者ハ、身體ノ苦痛ニ非ズシテ心意ノ
苦痛コレナリ、心意苦痛ノ重大ナル者、二種アリ、
曰ク願望ノ妄念、曰ク恐懼ノ妄念コレナリ、願望
ノ妄念トハ富貴名譽權力等ヲ願望シテ其得難
キガタメニ煩悶スルヲ謂フ、其實ハ他人ガ此等
ノ物ヲ有スルヲ見テコソ、イカニモ善キ者ノ様
ニ思ハレレ、之ヲ自分ニ得テ見レバ、必ズ大ニ失望
ス可キモノナレド、凡夫ハ之ヲ悟ラズシテ、法ヲ

犯シ、人ヲ欺クニ至ルナリト、次ニ恐懼ノ妄念ニ
至テハ、色々ノ種類アレド、就中甚シキ苦痛ヲ來
タス者ハ、死ヲ恐ル、ノ念ト、神ヲ畏ル、ノ念ト
是レナリ、氏ノ論ニ曰ク、凡夫ハ詩人、預言者ナド
ガ、死スル者ハ永久大苦痛ヲ受ケント言フヲ信
シテ、恐怖スル太シト雖モ、皆無實ノ妄想ナリト、
但シ氏ハ、人ノ靈魂ハ空氣ト蒸氣ト温熱ト今一
種ノ無名原素トノ結合ヲ以テ成リ、其純精ナル
者胸部ニ聚マリ、餘ハ全身ニ透浸シテ生活ヲ保
存スル者ニシテ、死ニ至ルトキハ、靈魂ノミ身體

西海神學講義 卷之五
ヲ離レテ存立スルヲ得ズト説キタリ、故ニ論
シテ曰ク、死ハ只ク靈魂身體ヲ離レテ消エ行ク
ノミノ事ナレバ、恐懼ス可キ理由萬々無シ、死有
ル時ハ既ニ吾有ラズ、吾有ル間ハ未ク死有ラズ、
死何ゾ憂フルニ足ランヤト、人皆死ヲ恐懼スル
ユエ、イタク災害ヲ痛ミ、疾病ヲ恨ムト雖モ、一旦
此妄想ヲ破ブルトキハ、大ニ一生ノ快樂ノ總量
ヲ増大スベシ、生キテ火宅ノ苦ヲ見ンヨリモ、死
シテ其苦ヲ免ル、コソ遙ニ優レリト也、奇論ト
作ス可シ、熾々ニ至ル大なり、亦亦所感歎、人亦亦

次ニ神ヲ畏ル、ノ妄念ト云フ事ヲ述ベシトス
レバ、先ヅエビキユロス氏ガ、神ハ何知ナル者ナ
リト思ヒシヤト云フ事ヲ述ベザル可カラズ、氏
ハ充分神ノ存在ヲ信シ、神ハ完全ナル幸福ヲ有
シテ、永遠ニ不死不變ナル者ナリト思ヒテ深ク
之ヲ尊崇シ、神又祭祀ナドヲ見テ喜ブト思ヒタ
リ、然レ氏之ヲ以テ人事ニ關涉スル効力者（エセ
ンシイ）ナリトスルハ、神ノ明德ニ背キ、大ニ尊崇
ノ念ヲ減ズル事ナリトシタリ、其論ニ曰ク、神ヲ
以テ或ハ宇宙ヲ主宰シ、或ハ人間ヲ賞罰スルガ

如キ事ニ於テ自ラ勞スル効力者ナリト思フハ、甚ダシキ誤ナリ、俗間ノ傳記說話ニハ往々斯クノ如キ事見エタレ、皆一方ニ於テハ神ノ尊大ヲ損害シ、一方ニ於テハ人ヲ誘惑シ無根ノ恐懼願望ヲ起シテ大ニ心意ノ痛苦ヲ増ス有害ノ妄誕ナルノミト、蓋シ神ヲ効力者ナリト爲スノ非ナル所以ノ者ハ他無シ、總ヘテ効カトハ、未ダ足ラザル所アルニ於テ存スル者ナルヲ以テ神ニ歸スルニ効カヲ以テスルハ、恰モ之ニ歸スルニ不足ノ態ヲ以テスルニ異ナラザレバナリ、神ノ

態ハ圓滿充足ナリ、何ク不足スル所カアラシヤ、例下ニ窮乏ノ供ヲ可キアリ、義務ノ完フスベキアリ、快樂ノ求ムベキアリ、目的ノ未ダ達セズシテ將來ニ達スベキアリ、幸福未ダ圓滿ナラサル場合ニ於テコソ、効カト云フ事ヲ要スベケレ、神ノ幸福ハ既ニ圓滿充足ニシテ、凡ソ効力以テ得ベキ所ノ者ハ悉ク之ヲ備ヘ、尚ホ其上ニモ多クノ善キ事ヲ具足セリ、故ニ神ノ上ニ於テハ効カトイフ事無シ、只夕寂靜盈滿アルノミ、神ハ無碍ノ安全、不移ノ満足ノ師表ナリ、即チ真正ノ快

西洋神學叢書 卷之五
樂、純粹之幸福ノ模範ナリ、是レ神ノ人ト異ナル
所ナリ、人ノ神ヲ尊崇スヘキ所以ノ者此ニ在リ
是ヲ以テ人若シ神ノ愛顧ヲ得ント欲セバ、自分
モ快樂幸福ヲ完全ニシテ成ル可ク神ノ状態ニ
近カラシムト務ム可シ、何ゾ徒ニ之ガ賞罰ヲ畏
レテ祈禱供獻スルヲ用ヒンヤ、神タル者身ヲ勞
シテ人ノ運命ニ干涉スル事アリト信シテ之ヲ
畏ルヘカ如キハ、却テ神德ヲ冒瀆スルモノト謂
フ可シトナリ、五ヒギエロス氏ハ斯ク論シテ當
時ノ人民ガ盛ニ預言、天啓、神通等ノ事ヲ信ズル

ヲ非議シタリ、是レ其ツクラチトス氏ト異ナル
所ナリ、二蓋シ夫レ其合マシムル所ハ
第百五節 以上述ブル所ハ、個々ノ人ノ幸福ニ
關スル事ノミナリキ、然レモモエヒギエロス派ノ
倫理學ノ關涉スル所ハ、人々別々ノ幸福ノミニ
非ス、其社會ニ立テ衆人ト交際スル上ノ幸福ニ
モ論及セリ、此事ニ關シテハ、五ヒギエロス氏論
ヲ二頭ニ分テリ、曰ク公道、曰ク友誼、コレナリ、公
道ハ世人一般ニ關シテノ幸福ノ要狀ヲイヒ、友
誼ハ殊ニ親シク交通スル人々ニ關シテノ幸福

ノ要狀ヲイフ而シテ雙方トモニ其據テ立ツ所
互相(レ)シブ(レ)ロシ(チ)ノ一事ニ在リトシタリ、互
相トハ自身ノ幸福ヲ全ク他人ノ幸福ノ爲メニ
犠牲ニスル事ハ無クテ、只ダ他人ト幸福ヲ俱ニ
シ、以テ互相ニ補益スルノ謂ヒナリ、
公道ノ命ズル所ハ、各人ヲシテ他人ニ損害ヲ加
フルヲ勿ラシメ、他人ニ損害ヲ加ヘザル以上ハ、
自分モ亦他人ヨリ損害ヲ加ヘラルハ、ノ患無カ
ラシムルニ在リ、衆人聚合シテ生活スルニハ、必
ズ其間ニ斯クノ如キ約束ナカル可カラズ、是ヲ

公道トイフ、此約束ニ背キ、或ハ背カント欲スル
者ハ、到底社會ニ生活スルヲ得ズ、踵ヲ回ラサ
ズシテ不幸其身ニ至ラン、自身ヨリ他人ニ對シ
テ公道ヲ破リナガラ、他人ヨリ自身ニ對シテ公
道ヲ守ル可シト思フガ如キハ、自ラ欺クノ所爲
トイフ可シ、不正ナル人ハ瞬間トイヘテ安全ナ
ルヲ無シトナリ、エヒキユロス氏明言シテ曰ク、
交際ノ間ニ正義公道ヲ守ルハ、敢テ他人ノ爲メ
ヲ計ルニ非ス、自身ノ安樂ノ爲メニ缺ク可カラ
ザル事タリ、且ツ自身ノ安樂ヲ得ル方法ノ最モ

善良ナル者タレバナリト、
次ニ友誼ニ至テハ、公道ノ場合ニ於テノ如ク、單
ニ他人ニ損害ヲ加ヘザルノミニ止マラズ、自ラ
振テ正面ニ慈惠ヲ加フルニ成ル者トス、然レモ
其對スル所ハ世人一般ニ非ズシテ、人々ノ殊ニ
親シク交通スル數人ノミニ止マレリ、エヒキユ
ロス氏友誼ノ必要ナル所以ヲ痛論シテ曰ク、斯
ク互相ニ慈愛ヲ盡ストキハ、雙方ノ幸福ヲ增大
スルト必定ナリ、人ノ良友アルハ恰モ第二ノ自
吾アルガ如シ、親友ハ危急ニ迫マレバ互相ノ爲

メニ身命ヲモ擲ツノ心得ニテ居ル可キナリト、
又眞ニ親友タル者ハ他ノ窮乏ヲ見テハ自身ノ
財物ヲ投ズベキト勿論ナルニテ、自分先ツ左様
ニ心得レバ、他モ亦自分ニ對シテ同様ニ心得ベ
キヲ以テ、ハイサゴラス氏ガ主張セシ如ク親友
ノ間ニ産財ヲ共有スルハ、當ニ無用ニ屬スル事
タルノミナラズ、却テ友誼ノ厚カラザルヲ示ス
事ナリ、故ニ寧忌ム可キ事ナリト、氏又務メテ他
人ヲ喜バシ、他人ノ爲ノニ勞シ、或ハ他人ニ吝マ
ズ物ヲ惠與スル事ヲ勸諭シテ曰ク、斯クスルハ

良友ヲ得ル法ノ善良ナル者ナリト、又曰ク、慈悲
ヲ施スノ愉快ハ、之ヲ受クルノ愉快ヨリモ大ナ
リト、又人ニ慈悲ヲ受ケタル者ハ、深ク其恩ヲ感
ズベキ事ヲ説テ曰ク、恩ヲ報スルノ道ヲ知ル者
只ダ聖人ノミナル乎ト、蓋シ此等ノ勸諭ハ其功
空シカラザリシト見エ、學徒ノ和合シテ俱ニ師
ヲ敬スルノ深ク永キハ、他ノ學派ノ間ニ其類ヲ
見ザル所ナリシ事、平生エビキユロス氏ノ教理
ヲ容レザル者ト雖モ舉テ讚美スル所ナリ、氏ノ
歿去後四百五十年ノ比ニタイヲゼニス、レヤル

チスト云フ人アリ、此人ノ傳フル所ニ依レバ、當
時自餘ノ學派ハ悉ク皆其跡ヲ絶チタリト雖モ、
獨リエビキユロス派ノミハ依然トシテ威光ヲ
零サズ、又人員モ甚ダ多カリシトナン、

第百六節 論ジテ此ニ至レバ、エビキユロス氏
ハ徳ト幸福トヲ以テ同物ナリトセシヤ明白ナ
ラン、幸福最モ大ナル人トハ果シテ誰ゾヤ、情慾
ヲ節制シ、費用ヲ儉約シ、俗説ニ惑ハサレテ死ヲ
恐レズ神ヲ畏レズ、富貴、權力、名聲ノ爲メニ心身
ヲ勞セズ、衆人ニ對シテハ公道ヲ完フシ、親友ニ

對シテハ仁愛ヲ盡クス人コレナリ、是レ豈ニ豪
徳ノ君子ナラズヤ、氏以爲ク、誰レニテモ適宜ノ
教育、朋友侶トヲ得ルトキハ、右ノ如キ心情ヲ備
フルニ至ル事難キニ非ズ、徳是ニ於テ完シ、徳ヲ
離レテハ真正ノ幸福ニ至ルノ道アラズ、人常ニ
斯クノ如キ心情ヲ涵養スルトキハ、竟ニハ僅ニ
衣服住ニ不自由ナクシテ朋友ト清談スルノミ
ニテモ、十分ナル快樂ヲ感スルニ至ル可シ、其外
ニモ尚ホ受クベキ快樂アリテ後ニ患ヲ殘ス事
サヘ無クバ、隨分之ヲ受ケルガ善シ、サレド自然

ノ法トシテ、一喜一哀ハ到底免レ難キモノナリ、
何ハ兎モアレ、只ダ心神ヲシテ、不動不企、不爭圓
満ニ寂靜ナラシメナバ、幸福立口ニ來ル可シト
云フ一事ニ至テハ、萬古動カザル所ナリト、

